

研究機関:広島大学

研究課題名 「ヒト肝細胞キメラマウスを用いた HBV および HCV 感染モデルおよび肝炎モデルマウスの作製」について

研究責任者名 広島大学病院 消化器・代謝内科 准教授 相方 浩

研究期間 2015年10月7日(倫理委員会承認後)～ 2025年3月31日

対象者

1990年4月から2022年7月までの間に広島大学病院を外来受診したB型慢性肝疾患患者、C型慢性肝疾患患者、非アルコール性脂肪性肝疾患または自己免疫性肝炎、または診察の結果異常を認めなかった健常者のうち、疫学研究「肝疾患の研究のためのデータベース登録(疫-726)」において同意が得られている患者。

意義・目的

B型肝炎ウイルス(HBV)やC型肝炎ウイルスが持続感染する患者、もしくは、非アルコール性脂肪性肝疾患、自己免疫性肝炎患者は慢性肝炎を発症し、肝硬変、肝癌へと病態が進行する可能性があります。今までは、チンパンジーを用いてHBVやHCVの治療薬の開発や肝炎の研究が行われていましたが、倫理的、経済的に大きな問題を抱えており、病態解明や治療法の開発のために小動物を用いた実験系が望まれていました。

今回、我々はマウス肝臓が高度にヒト肝細胞に置換されているヒト肝細胞キメラマウスを用いてHBVおよびHCVを接種したり、ヒト血球を投与することで肝炎モデルマウスを作製し抗ウイルス薬の薬効評価や肝炎の病態解明を目的とします。

本研究において、抗ウイルス薬の薬効評価および肝炎の病態を解明することによって、今後の治療の発展、向上に大きく貢献でき意義あるものと考え、この研究を計画しました。

方法

本研究は、肝炎患者さんの保存血清、もしくは血球をヒト肝細胞移植キメラマウスに投与し、B(C)型慢性肝炎感染マウスや非アルコール性脂肪肝炎モデルマウス、自己免疫性肝炎モデルマウスを作製します。また、患者血清を大阪大学へ送り、新規の遺伝子改変ツールを用いて、HBVの新規治療の開発を研究する。健常者の保存血清、血球はコントロールとして使用します。個人を特定できる情報は一切使用しません。

共同研究機関 大阪大学 薬学研究科 教授 水口 裕之

個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞1-2-3

Tel:082-257-5190

広島大学病院 消化器・代謝内科 准教授 相方 浩